

平成31年1月

普及活動報告



麦の生育状況の説明を受ける
(於：遷喬ふぁーむ)



ビール大麦に求める品質は？
(於：麒麟ビール神戸工場)

～ビール大麦に求める品質は？～ 栽培者が契約先の麒麟ビール神戸 工場などを見学

(亀岡市：16日)

亀岡市農業振興協議会水田部会では、ビール大麦の収量及び品質の向上のため、視察研修を行いました。

麒麟ビール神戸工場では、担当者から、ビール大麦に求める品質について説明を受けました。遷喬ふぁーむでは作業の効率化や機械体系について意見交換を行いました。普及センターからは管理の要点として、排水溝の点検と追肥の時期、量などについて説明しました。

ビール大麦は4月初旬に出穂期を迎えます。赤かび病の防除適期を決めるなどの重要な時期を迎えるため、3月下旬に現地研修会を予定しています。

場 所 遷喬ふぁーむ(福知山市)
麒麟ビール神戸工場
出席者数 33名

亀岡市農業振興協議会は、亀岡市、農業委員会、JA京都、振興局、普及センターで構成
平成31年栽培栽培面積は約95ha(29年度：93ha)

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年1月

普及活動報告

～京かんだしの出荷終盤を迎えて～ 出荷目合わせ会を開催

(南丹市：17日)



出荷が早まった原因を解説

JAから今年度の販売状況の説明があり、普及センターからは、10～12月の生育の早まりについて、気象データからその原因を解説した後、ハウス内の温度管理に着目した生育および根の着色確保のためのポイントについて説明しました。

また、生産者が持ち寄った出荷物を見ながら、根色や長さ等の出荷基準をみているか確認しました。

生産者からは、「昨年中は安定した出荷量となり良かった」「暖冬ではあるが、今後は気温の低い日が続くので、保温資材を活用して、2月中に出荷できるよう出荷時期を調整したい」との声がありました。普及センターは、今後も継続出荷できるよう支援していきます。



規格に合った根色を確認

場 所 JA京都日吉支店
出席者数 13名

京かんだしは、8月から翌年2月までJAを通じて市場へ出荷
平成30年度は栽培農家17戸、栽培面積70a

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年1月

普及活動報告

～先進農家に聞く～第2回京都丹波有機農業サロンを開催

(全域：18日)



講師による解説

普及センターでは、有機農業実践者及び志向者の緩やかなネットワークづくりをめざして「有機農業サロン」を開催しています。今回は、左京区大原地区で有機農業を実践している生産者から、就農や有機農業に本格的に取り組んだ経緯、様々な取組の成功例や失敗例、有機農業への思い等を講演いただき、講演後は参加者との意見交換を行いました。

参加者は害虫の防除方法についてアドバイスを受けていたりしていました。今後も普及センターは、有機農業者の交流の場を設ける等の支援を行っていきます。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 30名



意見交換会の様子

京都丹波有機農業サロンは南丹管内の有機農業実践者、志向者及び研修生が参加
H30年度は年2回の開催

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年1月

普及活動報告

～栽培技術・経営力の習得を目指して～

関係者で実践農場を巡回

(亀岡市：21日)



葉菜類の保温対策及び生育状況を確認



今後のハウス作業についてアドバイス

亀岡市内の実践農場3箇所を巡回し、実際に栽培ほ場を見ながら、当面の作業と次年度の作付計画について情報共有や助言を行いました。

「摘み取りシュンギクで側枝をもっと太くする整枝方法を学びたい」「資材が手に入らずハウス建設が遅れているため、作付け計画を見直したい」などの声があり、栽培技術等をアドバイスしました。今後も普及センターは関係機関と連携して、新規就農希望者を支援します。

場 所 亀岡市篠町・東本梅町・
馬路町

出席者数 10名

亀岡市内実践農場は3箇所

(篠町H30～32、東本梅町H29～31、馬路町H29～31)

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年1月

普及活動報告

～特産シュンギクの生産振興に向けて～ シュンギク生産者が市場視察研修を実施

(南丹市：22日)



せりの様子を見学

京都市中央卸売市場でせりの見学を行った後、市場の担当者からシュンギクの入荷量や価格の動向について話を聞き、出荷規格などについて情報交換を行いました。

今作のシュンギクは、暖冬の影響を受け安値傾向でしたが、品質が良い物は評価が高く、収穫調製技術の向上が大切であるとの認識を新たにしました。普及センターは、今後も栽培技術、出荷調製技術の向上について支援を行っていきます。



市場担当者と情報交換を行う生産者

場 所 京都市中央卸売市場
京都府南部総合地方卸売市場
出席者数 13名

平成30年度：生産者数35名、生産面積2.4ha

平成31年1月

普及活動報告

災害級の気象条件にあっても対応できる 小豆・黒大豆に関する栽培技術検討会議 を開催 (全域：29日)



多くの普及員の意見を共有し原因を究明

昨年は度重なる豪雨・台風や梅雨明け直後の高温・干ばつ等、気象条件が非常に厳しかったことから、小豆及び黒大豆が大幅に減収しました。そこで、普及センターでは、減収要因を解明するとともに、比較的減収の少なかった生産者への聞き取り結果を分析し、今後も想定される異常気象にも対応できる技術の提案と今後の指導方針について話し合いました。

昨今の気象状況や生産者の栽培管理について分析を進めた結果、昨年のような条件下でも、基本技術の実践が効果的であると考えられました。会議の内容を受けて、今後の指導方針等を取りまとめ、生産者への指導に役立てていく予定です。

場 所 園部総合庁舎
出席者数 12名

H30年 南丹管内黒大豆栽培面積115ha、小豆栽培面積137ha

京都府南丹農業改良普及センター